

しのばず自然観察会より 2024-8 2024.08.01

2024年8月の活動 不忍池 定点観察 8月11日(日)



集合:午前10時 不忍池 蓮池南西端
緑の小旗あり(野外ステージ西側、湯島
天神下交差点寄り)

今回は雨天中止

持物:筆記用具、双眼鏡、飲み物、雨具
(マスク、敷物、昼食)

解散は午後1時頃ボート池畔または藤棚
参加費不要 非会員の参加も歓迎

9月の不忍池定点観察は、15日(日)の予定です。

不忍池定点観察 2024年7月14日(日)より

梅雨とは思えない暑い日が
続いていましたが、梅雨前線が
南下して夜半から雨、10時頃に
雨あがるとの予報に期待を込め
て5名が参加しました。集合時
は霧雨、途中雨は降ったりやん
だりでした。蓮の葉の上には大き
な水玉。蓮池と動物園池はハス
の葉に覆われて鳥は見えず、園
路は蓮の花を撮影する人と、上
野夏まつりの屋台と飾り、人波
で結構混んでいて、自然観察に
は余り向いていない日でした。



ハスの開花状況

下町風俗資料館前にいつも集まる常連さんたちは、雨のせいか、夏まつりに締め出された

しのばず自然観察会 事務局 〒110-0001 台東区谷中3-1-9 小川潔方
1975年創立 電話 03-3828-8775 URL:<http://sinobazu.extrem.ne.jp>
郵便振替 00100-8-84609 しのばず自然観察会 年会費 2,000円

※2023年以前の会費未納の方もお忘れなく！退会の場合は早めに葉書で事務局へ※

のか、この日は見当たりませんでした。

ハスの花はたくさんありましたが、雨に花びらがめくれて垂れているものも多く、次に晴れる日が見ごろと思われれます。

アメリカザリガニが園路を歩いたり、アオダイショウが石垣岸壁で半身を現わしていたり、コサギが目の前に歩いて来たり、これらも雨の日だから見られたのでしょうか。



アオダイショウ

確認した鳥:カルガモ、カワウ、アオサギ、コサギ、ドバト、スズメ

その他の動物:コイ、モツゴ、コシアキトンボ、ヤマトシジミ(蝶)、アメンボの仲間、アメリカザリガニ、アオダイショウ、アカミミガメ

開花・結実:ハス、ウラジロチチコグサ、カタバミ、マメグンバイナズナ、キョウチクトウ(薄桃色花・紅色花)、カヤ、イヌビワ、ヤブカンゾウ、ワルナスビ、ジュズ、サンゴジュ、エノコログサ、イヌタデ、シマスズメノヒエ、ノゲシ、ヒルガオ、タチアオイ、ミソハギ、ツククサ、シロツメクサ、コマツヨイグサ、カンナ、オシロイバナ、メヒシバ、コニシキノウ、ヤブマオ?ソバ?(小川潔、小川千恵子)

2024年7月14日(小雨)の観察会から 小川千恵子

9:35 小雨降る。雨に濡れたドバトは身体がいつもより細い気がする。

ひっくり返したボートの上にコサギがいたので、近くまで行って見る。コサギはボートとボートの間の水の中をのぞきこんでいる。ボートのすぐ北(私から見ると手前)にゆるんだ形でロープが張られている。コサギは首を長くして水の中をのぞきこんでいて、スッとロープに移って嘴を水面に素早く入るとみごと4~5cm位の小魚をゲットし、飲み込む。また水面をのぞいている。隣のボートにカメ1匹。

戻って、ハンノキの南の桜の木の東側の水面の鉢の中に小さめのコサギが1羽立っている。アレ?飛んで来たのかな?と思ってボートの方を見ると、そちらにはそのままコサギがいる。その桜の南にヤブカンゾウ(?)。シマスズメノヒエ。エノコログサ(ネコジャラシ)。イヌタデ(アカマンマ)。イネ科の葉。ヘラオオバコが多い。ヒルガオのピンクの花。先月、ソバと判明した白い花は株が増えて咲いているが、そろそろ終わり頃。ノゲシの黄色い花。チガヤ。タチアオイは花の枝の先っぽに花がひとつ、ふたつ残るだけで下の方は実がぎっしり。梅雨入りの時期に花が咲き始め、梅雨明け頃には花が散ると言われている。

水辺の鉢にガマ。隣の鉢にピンク色のミソハギが咲く。シロツメクサは終わり頃で、花も少な

い。エノコログサ。ヤブガラシの葉。石垣近くの地に這う、例の小さな丸い謎の葉達はヤブガラシの下になっている。コマツヨイグサの花が黄色からオレンジに変わっている。ユウゲシヨウ。

集合地

2m近くに伸びたカンナに黄色い花が咲く。花びらが落ちていく。そばに丈の低い白い花のタチアオイと真紅色の花のタチアオイが、花少なに咲いている。赤っぽいオシロイバナもある。

南側の草地には、ヤブカンゾウ(ヘメロカリス)。花が一重ならノカンゾウ、八重ならヤブカンゾウ、と潔。ワルナスビが多い。青いツユクサ。

音楽堂西。キョウチクトウが咲くが、花びらが多数落ちていく。木は去年より小さい。ギンギシ。ナズナ。エノコログサ。メヒシバ。

音楽堂東から池に沿って下町風俗資料館前まで南北両側に店が連なり、食べ物の臭いが漂う。浮き橋の方を見ると柱が組まれ、上の方に何やら多数が吊り下げられていて、水色の紙がさざ波のように揺れている。Miさんが「新聞に載っていた風鈴じゃない？」と。でも音は全く聞こえない。とてもとても不思議で不気味な光景。

浮き橋に行く。しっかりした木で作られた柱が立ち、上に幾重にも張られた棒に、頭がガラスで水色の紙のような物がついた無数の風鈴がぶらさがる。そして音がカラカラと聞こえる。先程の音無しは、どうやら風向きが原因で聞こえなかったらしい。水色の札には上野の商店名が書かれている。

蓮は水面上1m以上になった。花は花びらがたれ下がる程に開ききった物と蕾が多く、昨日、今日咲き始めたと思わせるような花は見当たらない。ただ、大きい蕾の外側の1~2枚だけがたれ下がっている花は多い。こんな開き方の花が多いのは初めてネと、Miさん、Teさん。強い雨にやられて開ききった花と、今日咲こうと思ったけど、雨で開くのをやめてしまったのかなあ？と。

ジュズダマの実がぎっしりついている。

下町風俗資料館の北の方の池側の草は丈5cm位に刈られている。アオサギが北へ飛び、くるりと回って動物園池の方へ降りたもよう。スズメが2羽、草地をピョンピョン跳び歩きながら下をつつく。全長7~8cm位のアメリカザリガニ1匹が駅伝の碑の北の木の下で動いている。その後どうしたのかは、わからない。

動物園弁天門そばの青白の幕には大きな説明板があった。

弁天堂入口から橋の間の蓮池縁(露店の後)に丈1m位のサルスベリのピンクの花が咲いている。小藤棚は南東の端の方に薄紫色の花がたれ下がる。

大藤棚南東のジュズダマは実がぎっしりついている。



園路上のアメリカザリガニ

大藤棚南にはワルナスビが丈20~30cmで、多数咲いている。サンゴジュには、赤い房状の実がたれ下がる。

弁天堂出口の橋の上から動物園池を見て、このあたりは蓮の実が多いことに気づく。水の中に小さな「メダカかしら？」とMiさんが言うくらいの小魚が多数泳ぐ。モツゴ(クチボソ)と、潔。

ボート場事務所前で南下。ボート池の水面をコシアキトンボが飛ぶ。アメンボが7匹以上いる。カルガモが1羽。ボート池の東縁、コサギが飛んで来て、陸地に降り、少し北へ歩いて、南に戻って飛んで行ってしまふ。

アオダイショウが陸地の石垣のところ上がりながら、南へ向かう。シッポも上がってきて、1m位、と確認。頭を石垣の端から池側に落としてシッポまで伸ばした状態で留まる。

先程のカルガモがまるで私達についてくるように泳いで南下。しばらく行くと、陸の上にカルガモ2羽がいて、先のカルガモが上がろうとするが、1回目は落下。2回目で成功して陸に上がる。グワグワッと3羽で鳴き合う。先の1羽は眼の辺りから首にかけて、他の2羽より色が濃くてはっきりしている。他の2羽は眼元、首辺りが白っぽく見える。親子かなあ？

時々雨が降り出すので、地表の植物をゆっくり見て歩くのが難しい1日だった。

*先月の活動記録にカルガモの雌雄について、「大きくて色がはっきりしていて、嘴も黄色が鮮やかで、身体の後ろの方の青い羽も鮮やかな方が雄。少し身体が小さく、身体全体の色がぼんやり薄い色の方が雌。」と書きました。Saさんが雌雄の大きさの区別が逆では？と気付いて、他の特徴についても鳥に詳しい方にきいて下さいました。その返事は、個体差もあるし曖昧で判別は難しいとのこと。Saさん、お知らせありがとうございました。

しのぼず自然観察会50年史 進捗状況

上野駅に関して「上野しのぼず学習会」での発表をふくらませて寄稿していただく原稿の完成稿が未着ですが、草稿段階のものを加えて、出版社に大まかな見積もりを頼んでいます。本文中に動植物や文化遺産の写真が入る関係でカラーページを確保したいこともあり、独自の動植物・文化遺産アーカイブ写真集は、今回は見送りになりそうです。

上野公園に関する出版なのでその知名度から、クラウドファンディングなどで寄付を呼びかければ資金は集まるでしょうとの助言もいただいています。それでも、50年史本体は私たちの足跡や主張を織り込んだ内容になりますので、スポンサーなしで完成させたいと考えてきました。本文中には、開発をねらう団体などへの批判や、行政への批判と逆に叱咤激励も各所に出ています。スポンサーへの気兼ね(昨今はやりの言葉で言えば忖度)がちらついては、市民の声はあげられません。また、しのぼず自然観察会がかつて、上野公園の彰義隊墓所から上野のお山直下にある副代表宅に事務局連絡先を移したのは、不忍池駐車場建設反対運動の最中、俺は賛成だと言って墓所に怒鳴り込んできた人がいて、墓所の小川彰さんに危害が及ぶのを避けるためでした。自由にモノが言えることの大切さを噛みしめています。(小川潔)